

(インドネシア) - 2件

1. メドコ、ブラウン・イジェン鉱区の地熱探査を開始

2020年4月2日

メドコパワー・インドネシア社は、東ジャワ州に位置するブラウン・イジェン(PLTP Blawan Ijen)鉱区にて探査井の掘削を開始した。このプロジェクトは、110MW 容量の地熱発電(PLTP)が予定されている。

掘削は、メドコチャハヤ・ジオサーマル社が請負い、4つの井戸を掘削する。最初の2つの井戸は、2,500~3,000mの深さを予定している。2020年末終了が目標。この目標により、同社は2022~2023年に第1号機が商業的に稼働できることを期待している。

メドコパワー社は、サルラ地熱開発に参画しており、メドコチャハヤ・ジオサーマル社は、メドコパワー社とオーマツ社との合併会社である。

(出典:4月2日 KataData Web ニュース)

2. 政府、地熱エネルギー開発を奨励するサポート規制を策定中

2020年4月6日

エネルギー鉱物資源省・新再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)は、地熱探査・掘削を容易にする新しいサポート規制を策定中と発表した。

地熱局のイダ・ヌルヤティン局長は以下のように説明した。

「現在、EBTKE と地質庁とで議論中であり、新規定公布は今年中を目標としている。高い投資要件と地熱探査における高リスクは、民間投資家が地熱開発へ投資することへの障害となっている。一方、インドネシアの地熱ポテンシャルは 23.9GW に達すると推定されているが、利用されているのは約 8.9% の 2.1 GW のみである。ポテンシャルは高いが、探査プロセスへの投資コストが高く、電力売買価格も経済性が低い。結果として、政府による鉱区入札の提案はあまり魅力的ではなかった。国の地熱セクター開発を加速するためには、投資家に提供される前に、政府による探査・掘削を行い、地熱鉱区のバンカビリティと信頼性を高める必要がある。地熱開発は、各段階で異なるレベルのリスクがある。探査と掘削の前にジオサイエンスデータを利用することで、地熱井掘削の成功率が決まる。さらに、3G および電磁探査と温度勾配の可用性により、掘削失敗を 50% に削減できるとされている。」

(出典:4月6日 KONTAN Web ニュース)